

2024年3月1日(火) 17:00~18:30

藤井節郎記念医科学センター1階ホール

Ribosome biogenesis を標的とする がん治療法開発

がん研究会・がん研究所・細胞生物部 部長

八尾 良司 博士

近年、さまざまな分子標的薬が開発されているが、KRAS変異陽性大腸がんに対する有効な治療法は、未だ確立していない。私たちは、大腸がん組織がもつ細胞不均一性と可塑性が、治療抵抗性の一因である可能性に着目し研究を進めてきた。ヒトがん組織の細胞多様性を反映する患者由来オルガノイドを樹立し、分子標的薬に対する反応性についてマルチオミックス解析を進めた結果、RASシグナルを標的とする薬剤に対して抵抗性を示すKRAS変異陽性大腸がんオルガノイドが、薬剤処理によりribosome biogenesisが高い幹細胞様の細胞集団を生じていることを見出した。本講演では、その生物学的な意義と治療法開発への可能性について議論したい。

キーワード：ribosome biogenesis/ patient-derived organoids/ RAS

本セミナーは大学院医学研究科・口腔科学研究科・
医科栄養学研究科の大学院特別講義を兼ねています

教職員、大学院生、学部学生など皆さまのご来聴を歓迎いたします

お問合せ先：先端酵素学研究所セミナー運営委員会 第57回担当

細胞情報学分野・吉川治孝 [yoshikawa.harunori \[at\] tokushima-u.ac.jp](mailto:yoshikawa.harunori[at]tokushima-u.ac.jp) 内線 7740

主催：徳島大学先端酵素学研究所

共催：文部科学省共同利用・共同研究拠点事業

共催：徳島大学研究クラスター「[独自の解析技術と疾患科学の融合によるリボソーム創薬の創生](#)」

